

2・岩手県における文化財レスキューの取組み

鎌田 勉 岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課 主任主査

0. はじめに

中心市街地が壊滅的な被害を受けた陸前高田市では、市立図書館・博物館への通路が確保できたのは平成23年3月末。地元古文書研究会が全壊した陸前高田市立図書館2階貴重本庫で、県指定文化財吉田家文書その他の古文書類を確認し、市教育委員会からの要請により県内各機関の職員が救援に駆け付けた。ビニール袋に封入された被災資料は県内各所に移送されたが、岩手県立博物館で集中的に応急処理を行うことになった。古文書のレスキューは震災後3週間近くを経過していたが、甚大な被害状況の中でいち早く取り組まれたものであり、初動の早さが被害を最小限に食い止めた面もあった。吉田家文書他のレスキューを契機に県内の活動が本格化していった。

岩手県では県教委生涯学習文化課が連絡調整役となり、県立博物館を軸として県内各機関や市町村教委、民間団体の連携により進められた。陸前高田市立博物館では、瓦礫撤去と並行して被災資料の救出が精力的に行われてきたが、4月末、500号の絵画を含む百数十点の美術品が発見されたことを受け、今後の対応を文化庁美術学芸課と協議を行い、5月2日付で県教育委員会から救援委員会あてに総括的な要請を行うこととなった。それ以降、救援委員会の各構成団体等による救援活動が本格化した。文化財レスキューは大津波の被害を受けた陸前高田市・大船渡市・釜石市・大槌町・山田町・宮古市・野田村の沿岸7市町村で行われた。以下、沿岸各市町村での活動の概要を紹介する。

1. 陸前高田市

1-1 陸前高田市立図書館

被災した吉田家文書は、大肝入として仙台藩気仙24か村を統括した旧今泉村吉田家が所蔵してきた古文書である。県立博物館に搬入された資料は、岩手大学・盛岡大学等の学生・教員、一般ボランティア、県立博物館職員により一次洗浄が行われ、7月からは緊急雇用職員9名が作業に当たった。一次洗浄後の古文書類は、凍結乾燥処理まで県立花巻農業高校のリング保管庫で保管していたが、株式会社デンソーから定置式大型冷凍コンテナの無償貸与を受け、6月15日に敷地内に設置された。救援委員会から保管・整理用の中性紙箱等の物資の支援を受け、



古文書の救出（陸前高田市立図書館）

12月～平成24年3月に国立国会図書館の支援により安定化処理を実施している。県立博物館では一次洗浄から脱塩・乾燥・燻蒸・成形・整理まで一貫した作業が行われ、平成24年3月で乾燥まではすべて終了する見込みである

1-2 陸前高田市立博物館

① 民俗資料と旧生出小学校での活動

陸前高田市立博物館は、昭和34年に岩手県第1号の総合博物館として開館し、半世紀に及ぶ諸活動で考古資料から民俗資料、生物・地質標本まで非常に幅広い内容の資料が所蔵されていた。民俗資料では、国登録有形民俗文化財・陸前高田の漁撈用具2,045点を含む農耕・狩猟用具、高田人形やオシラサマ等の民俗資料約23,000点が被災した。展示品もあったが登録文化財の多くは2階収蔵庫に保管され資料の流失は免れた。全長15mを超える漁船もあり救出作業は難航したが、自衛隊の協力もあり5月中旬に陸前高田市内の旧生出小学校（以下、旧生出小）に移送された。旧生出小は平成23年3月で閉校になったが市内では電気・水が使える数少ない施設であった。資料にはそれぞれラミネートによる防水タグが付けられていたが津波で失われることはなかった。防水タグにより確認作業がスムーズに行われ、これまで9割近くの残存を確認することができた。

資料の洗浄は、県立博物館・遠野市立博物館等の支援により、市教委の緊急雇用職員で行っている。7月19～22日、



陸前高田市博物館資料の洗浄作業(奥州市埋文センター)



陸前高田市出土品の回収作業(陸前高田市埋文収蔵庫)

救援委員会派遣チーム(民博 日高准教授・日博協から 13 名)が旧生出小入りし、8 月中旬から 11 月にかけて断続的に行われ 11 月 21 日に完了した。

旧生出小内の環境が悪化してきたため、救援委員会の手配で 9 月 26～30 日に専門業者による除菌クリーニング、10 月 14～19 日に各教室及び民俗資料等の燻蒸が行われた。さらに、各教室及び体育館に柵を設置するため、救援委員会・県教委・県立博物館によりスチール柵が搬入された。整理・保管用のコンテナについては、救援委員会を通じ 6 月 14 日に奈良県各機関からコンテナ 1,091 箱の提供を受け、さらに 11 月 7 日に山形県埋蔵文化財センターからコンテナ 2,028 箱、11 月 10 日に 2,800 箱の提供を受けている。

漫画雑誌・教科書など洋本資料については、5 月 25 日、山形文化遺産防災ネットワーク(以下、山形ネット)が旧生出小から救援委員会指定の仙台空港付近のニチレイ冷凍庫に移送した。また、8 月上旬には救援委員会により段ボール 500 箱分を矢巾町岩手物流センターの冷凍庫に移送している。山形ネットが東北芸術工科大学に移送した書籍類については、11 月に旧生出小に返却し、学術的に重要なもの、傷みの進行しているものは県立博物館に移送し応急処置を実施している。

② 考古資料と埋蔵文化財収蔵庫

考古資料については、流入した砂の中から回収する必要があるため救出作業は 6 月末まで続けられた。県立博物館や県内市町村教委の支援もあり、県指定の銅罎口、市指定の青銅埴子・蕨手刀等を回収し、金属製品は県立博物館で保存処理を行っている。骨角器約 1,600 点については、1,000 点以上を回収することができたが、有機物が付着し水洗いのみでは除去できないことから、8 月上旬に奈良文化財研究所埋蔵文化財センターに依頼して洗浄を行っている。

埋蔵文化財収蔵庫が全壊し資料が瓦礫と砂に埋もれてしまったため、県教委・県立博物館・県埋蔵文化財センター及び県内各教育委員会が回収作業に参加し、作業は 4 月から 6 月まで 3 次に行われた。土器・石器類はコンテナ 1,000 箱に及び、県埋蔵文化財センターや旧生出小に移送しそれぞれ緊急雇用職員が洗浄・整理を行っている。

③ 生物標本と美術品

4 月中旬から始まった救出活動により、昆虫標本約 24,000 点、植物標本約 15,000 点を救出している。そのうち昆虫標本は約 10,000 点を県立博物館に移送し、うち 1,000 点ずつを北上市立博物館及びいちのせき健康の森に移送し、ボランティアの協力を得ながら洗浄・復元作業を行っている。被災標本の応急処置が急がれたことから、その他の約 12,000 点を全国の自然史系博物館等 17 施設に依頼している。植物標本はすべて県立博物館に移送したが、そのうち約 7,500 点を全国の自然史系博物館等 30 施設に依頼している。魚類・菌類の液浸標本は約 150 点を県立博物館に移送し、泥除去後一時保管している。また、鳥獣類剥製標本については、約 30 点を岡山理科大学(富岡直人准教授)に移送し、倉敷市立自然史博物館や山階鳥類研究所等の協力のもと洗浄・復元作業を実施している。旧生出小移送分も、8 月中旬に剥製・骨格標本約 500 点、動物遺存体資料約 180 点を岡山理科大学に移送、一部は倉敷市自然史博物館・山階鳥類研究所・西尾製作所に移送し、洗浄・修復等を実施している。

陸前高田市立博物館 2 階収蔵庫に納められていた美術品については、全国美術館会議が担当することになり、6 月 13 日、全美事務局が現地で事前調査を行い、翌 14 日全美・救援委員会事務局・県教委等との協議が行われ、応急処置の場所を盛岡市内の旧岩手県衛生研究所とした。7 月 12～14 日、陸前高田市教委の立会いのもと資料確認・梱包作業

が行われ、8月9日から燻蒸が行われた。8月20日から全国の美術館関係者による洗浄作業が始まり、9月27日にすべての作業が終了した。9月29日、処理が終わった美術品(絵画83点・書71点・立体2点、計156点)は保管場所の県立美術館に移送されている。

④ その他の資料

陸前高田市内産出のアンモノイド等記載標本を含む、岩石・鉱物・化石等の地質標本約340箱については、8月1～4日、旧生出小で全国の博物館等の職員19名による洗浄作業が行われた。写真資料については、市立図書館・海と貝のミュージアムのもを含め約80,000点が県立博物館に移送されたが、陸前高田被災資料デジタル化プロジェクト実行委員会(事務局:早稲田システム開発株式会社)から申し出があり、同実行委員会に洗浄及びデジタル化を依頼している。

主に、宗宮元館長が石碑の拓本をとり自ら表装した軸物資料については、奥州市埋蔵文化財調査センターの整理室を借用し、12月14日から24年2月20日まで、本紙解体、脱塩・洗浄、乾燥作業が行われた。作業には文化財保存支援機構のボランティアが延べ120名が参加し、459点の応急処置を終えることができた。

1-3 陸前高田市海と貝のミュージアム

約50点のタイプ標本を含む日本の海産・陸産貝類の貝類標本約10万点がすべて被災したが、4月3日に瓦礫・雑物撤去及び救出作業開始が始まり、県立博物館等の支援により4月7日貝類標本の搬出作業が始まった。タイプ標本を含む約37,000点は県立博物館に移送し、残りは旧生出小に移送し、洗浄・整理作業を行っている。さらに、5月10日には、歴史資料ネットワークが鳥羽源蔵紙製資料を東北芸術工科大学に移送しており、9月には救援委員会の手配により、神奈川県真鶴町立遠藤貝類博物館へ貝類の洗浄を依頼している。10月、県立博物館が大阪市立自然史博物館に微小貝類標本34ケース(約1,900箱)の洗浄処理を依頼している。一方、ツチクジラ剥製標本については、5月28～29日に国立科学博物館が天井吊りの状態から可動仮設架台へ移設を行い、6月29日につくば市の国立科学博物館倉庫に移送し、洗浄・燻蒸処理を実施している。

1-4 陸前高田市役所行政文書と学校所蔵の美術品

全壊した陸前高田市役所にあった市長部局文書・教育委員会文書・議会関係文書等の行政文書は、自衛隊等の協力を得て市内の旧矢作小に移送された。8月29日から全国歴史資料保存利用機関連絡協議会が文書の展開と仕分け、簡易な乾燥作業を

実施しており、10月から新たに神奈川県立公文書館が作業に参加している。10月19～20日、神奈川県立公文書館が洗浄・修復のため公文書400冊を同館に移送した。

学校所蔵の絵画等のレスキューは、市立広田中学校と県立高田高等学校で実施している。9月6日、陸前高田市教委から広田中学校所蔵の絵画のレスキュー要請があり、10月7日に広田中学校から旧生出小に移送し、10月15～19日に旧生出小で燻蒸を行った。洗浄作業については、三重県立美術館が担当することになり、11月15日、救援委員会により旧生出小から花巻市萬鉄五郎記念美術館に移送し、11月26日、萬鉄五郎記念美術館から三重県立美術館に移送した。12月～24年3月、三重県立美術館で作品の洗浄・修復作業が行われ、ジョイフル・アートミュージアム・ミエ研究会・三重大学・岐阜県立美術館他の職員が参加している。洗浄終了後は萬鉄五郎記念美術館に移送し、同館で当面の間保管する予定である。

山際にあった県立高田高等学校でも3階の教室にまで津波が押し寄せ、全壊状態となった。12月の同校からの要請により、12月19日と1月17日、高田高校及び高田高校広田校舎から絵画・書13点を県立博物館に移送した。県立博物館での燻蒸後、その後は東博で行うことになり、1月20日に東博による事前処理等が行われ、2月18日に東博に移送している。

2. 大船渡市

大船渡市では個人所有の古文書等のレスキューが行われている。5月4日、京都造形芸術大学(大林准教授)が、赤崎町の個人宅から近世の古文書類を救出し東北大学に移送した。さらに5月12日に、宮城歴史資料保全ネットワークによりその古文書類は奈良市場冷蔵に移送された。その後、奈文研で真空凍結乾燥後、現在、京都造形芸術大学で洗浄作業が行われている。また、一関市博物館が末崎町の個人宅から古文書類を救出し、宮城資料ネットにより東北芸術工科大学に移送され、山形ネットにより応急処置を実施している。赤崎・末崎の資料とも処理後は東北大学に移送し、デジタル化のための写真撮影を予定している。

3. 釜石市

釜石市教委所蔵の民俗資料を保管していた旧釜石第一中学校も1階部分が被災し、6月上旬に県立博物館が現地調査を行い、洗浄等の応急処置を実施した。さらに、7月2日には、県立博物館・岩手歴史民俗ネット・山形ネットボランティア・遠野市博物館・釜石市郷土資料館により、旧釜石一中及び被災復興記念館所蔵資料の洗浄作業が行われた。処置後の資料については、県立博物館が現地で経過観察を実施し、錆化が進んだ資料の脱

塩方法について指導、防錆処理を実施している。釜石市役所の行政文書については、4月26～27日、国文学研究資料館（青木准教授）が被害状況の調査と一部乾燥処置を実施し、5月6日、救出・乾燥作業を開始し、旧釜石一中に移送した（段ボール箱1,000箱、推定20,000冊）。国文学研究資料館及び関係機関の職員・ボランティア等による応急処置は、原課への返却に向け長期間の取組みが行われている。

4. 大槌町

大槌町では出土品及び郷土資料、個人所有の古文書のレスキューが行われた。町立大槌中学校に仮置きされていた出土品が被災したことから、4月15日、県教委からの呼びかけで県立博物館・県埋蔵文化財センター、花巻市教委・盛岡市教委等の職員が参加し回収作業が行われた。回収したコンテナ約300箱を県埋蔵文化財センター等に移送し、洗浄・整理作業が行われている。また、5月17～20日、遠野市立博・遠野文化研究センターが、大槌町立図書館の郷土資料約500冊を救出し洗浄・乾燥を実施している。また、5月31日、大槌町教委から要請があり、個人所有の絵巻を県立博物館に移送し応急処置を実施している。9～10月には、岩手歴民ネットが個人所有の古文書類の悉皆調査を実施している。9月1～2日の吉里吉里地区の調査では、個人蔵の前川家文書の状態を確認したが、所有者が陰干しを行い状態は比較的良好であることを確認し、10月上旬には、現地で洗浄作業実施するとともに、状態の悪いものは県立博物館に移送し応急処置を行っている。



大槌町出土品の回収作業（大槌中学校）

5. 山田町

山田町内の文化財収蔵庫は収蔵品すべてが流失したが、大震災後、町民から農具・漁具を中心とした民俗資料が町教育委員会に寄贈された。すべて津波被害を受けた資料であり、専門家



コンクリートの基礎だけ残った山田町文化財収蔵庫

による応急処置と保管場所の確保が課題になっていた。鯨と海の科学館でもクジラ関係の民俗資料が被災していた。山田町教委からの要請により、平成24年1月17～20日、救援委員会派遣のチーム（民博・日博協7名）により、中央公民館分79点、鯨と海の科学館分814点の洗浄・整理作業が行われた。海藻標本類については、約80,000点の海藻押し葉標本と、鯨と海の科学館で保管していた液浸け標本約2,500点が被災した。救出された海藻押し葉標本約10,000点については、山田町教委が県立博物館及び国立科学博物館の指導を受け洗浄作業を行っており、11月24日に保管のため県立博物館に移送している。山田町役場の行政文書については、6月25～26日、山田町教委と国文学研究資料館が水道事業所関係文書のレスキューを実施し、7月11日には山田町役場地下書庫の公文書の乾燥作業を実施している。また、平成24年1月から国立公文書館が乾燥作業の支援を行っている。

6. 宮古市

宮古市では、宮古市役所・市民文化会館所蔵の絵画及び個人宅の美術品のレスキューが行われた。8月22日、宮古市教委から宮古市所蔵絵画資料2点（宮古市役所ロビー・宮古市民会館）のレスキュー要請を受けて、8月31日、全美等により絵画の搬出・移送が行われ県立博物館に搬入した。県立博物館での燻蒸後、旧岩手県衛生研究所で洗浄が行われた。処置後の作品は9月29日に県立美術館に移送され、11月7日に宮古市に返却された。津軽石の盛合家住宅（国登録有形文化財）所蔵の屏風や襷絵、衝立など10件についても、宮古市教委からのレスキュー要請を受けて、9月28日に全美・救援委員会により盛合家から県立博物館に移送された。9月29日、県立博物館で国宝修理装演師連盟による調査が行われ、10月、県立博物館が燻蒸処理・カビ落とし等を行い、平成24年1月30

日～2月1日、5件について東京文化財研究所・装演師連盟による本紙解体が行われ、洗浄・脱塩作業が進められている。

7. 野田村

野田村では書籍類及び個人所有の古文書のレスキューが行われた。被災した野田村立図書館の書籍類については、岩手県立図書館及び国立国会図書館、近隣の公立図書館が救出作業を行い現地で応急処置を行った。特に重要な資料については、国立国会図書館が洗浄・保存処理を行うことになり、11月15日、241冊を国立国会図書館東京本館に移送しており、平成24年3月末に返却された。個人所有の古文書については、第12代目野田村村長佐藤貞太郎氏ゆかりの資料で、弘前大学亀ヶ岡文化研究センターが被災アーカイブの保存修復事業の一環として、平成24年1月23日に古文書段ボール5箱分を弘前大学に移送し、平成24年4月から応急処置、一時保管を行う予定である。

8. おわりに

昨年4月からの県内外の多くの人々の活動により、県内の被災文化財等はほぼ救出されたものと考えられるが、移送はしたものの応急処置が手つかずになっている資料や、冷凍保存されたままになっている資料も数多くあるのが現状である。陸前高田市立博物館の被災資料で今後安定化処理の必要なものは、民俗資料（民具・漁具・農具等）、歴史資料（古文書等）、生物標本（植物・昆虫・貝等）、古い教科書・漫画雑誌類などがあり、他県で冷凍保管されている資料もある。陸前高田市立図書館の古文書等については、県立博物館での応急処置により23年度末で乾燥までが終了する見込みとなったが、分類・整理等と保管場所の確保が課題となっている。山田町の民俗資料についても、資料の安定的な保管場所の確保が問題となっている。保管場所については、陸前高田市立博物館の美術品を県立美術館、広田中の絵画を萬鉄五郎記念美術館、陸前高田市立博物館の軸物資料を一関市博物館、陸前高田市立図書館の古文書類は県立図書館、大船渡市個人蔵の古文書類は大船渡市立博物館で、と県内各施設での対応の輪が広がってきている。安定的保管の段階にある資料は全体のごく一部にすぎないが、吉田家文書等抜本的な修復が必要なものが多くあり、今後修復に向けた調査や個別仕様書の作成が必要となっている。一方、旧生出小は陸前高田市立博物館・海と貝のミュージアム仮収蔵施設として、今後も安定化処理の拠点となっていくものと思われるが、館内環境や防犯面で収蔵施設としての機能を高めていく必要がある。

これまで、岩手県の文化財レスキューに支援いただいた救援委員会を始め県内外各機関・団体、ボランティアの人々の活動

に感謝と敬意を表したい。昨年4月から5月に取組まれた活動はやや混乱していたものの、これまでの博物館等での繋がりやネットワークの蓄積がフルに生かされたものであった。今後は、県内のレスキュー活動に取組んだ沿岸市町村教委や県内博物館等との連携を密にしながら、安定化処理や保管、修復に向けた取組みを進めていきたい。